
読書の印象

図書委員

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

読書の印象

【Nコード】

N2911Y

【作者名】

図書委員

【あらすじ】

自分の成長を映してくれるような名著に出会うことは重要だよね。という話。

（前書き）

高校の時に図書委員として読書奨励のために校内の図書便りに投稿したもの。

<2ちゃんにて批評依頼中>

大学に入ってから文章をほとんど書いてこなかったのですが、就職活動の中で自分の生き方を考えるにあたって、

「物書きになりたい」というかつての夢が浮上してきました。

現在、この夢を追うか諦めるか悩んでいるところです。

進路決定の判断材料として、自分の文章レベルを知りたいです。評価をお願いします。

夏休みの読書感想文に井伏鱒二の『山椒魚』を選んで、大変な目にあつたことがある。とどのつまり、埋まらなかつたのだ。マスが書いては消し、書いては消しを1時間ほど繰り返したところで、千円札をにぎりしめて本屋に行く羽目になつた。

『山椒魚』の内容は実にあつさりしている。成長して体が大きくなり、棲家の岩屋から出られなくなつた山椒魚は外の景色を眺めて暇をつぶすが、外界でいきいきと生を営む生きものたちを見て、自分の奪われた自由を呪い、悲嘆に暮れる。あるとき岩屋に迷い込んだ蛙を自分と同じ苦しみを味合わせてやろうと閉じ込め、蛙を嘲り、言い争いになるが、もはや岩屋から出るのはあきらめるしかなかつた。そのうちに喧嘩する気力もなくなり、2年の歳月が経つた。ふと山椒魚は蛙に話しかける。「お前はいまどうしていることを考えているようなのだろうか？」いよいよ死にかけてきた蛙は答える。「今でもべつにおまえのことをおこつてはいないんだ」

-と。物語はここで終わる。とりあえず山椒魚や蛙を人間に置き換えてみよう。印象がガラリと変わってくると思う。山椒魚と蛙は自由を奪われた人間だ。しかし終身刑の囚人というわけではないだろう。2匹は精神的な自由を奪われた人間である。と、僕は考えた。しかし、その先がどうしても出てこない。如何せん、文章が簡潔すぎる。結局、その籠められたメッセージの全体像をつかみ取ることができず、その憶測はマスを埋める材料には至らなかつた。後々、知つたことだが、やはり世間でもこの短編小説はかなりに難解な面を持つた小説として捉えられているようで、多くの『山椒魚』論が試みられているそう。未だにすつきりとは解明されていないうらみもあるとか。全く、感想文の本を適当に選ぶものではなかつた。そもそもどうしてこんな珍奇で難解な本を選んだかというのも、塾の現国の先生の強い勧めがあつたからだつた。後日、塾の先生に

文句を言い教師詰所に行ってみたところ、

「先生！『山椒魚』ムズ過ぎです。ひどい目に遭いましたよ。何でこんな本勧めたんですか！？」

「あー、やっぱり？」

いい加減にして欲しいものである。しかし、興味深い回答も得られた。

「いや、やっぱりこの時期に読んでもらいたかったのよ。『山椒魚』

」

「なんですか？この本、何が言いたいのかほとんど分からなかったですよ」

「まあ、『山椒魚』は“熟成する”本だからねー。今、全然分らないだろうけど、もうちょっと年食えば、見えてくるものも違ってくるよ。まあ、とにかくその“違う”っていう感覚を後々、味わえるようにさせたかったの」

さすがは現国の先生である。考え無しにこの珍奇な本を押しつけたわけではなかったようだ。小学生の時にこの本を読んでいたら、頭をひねる間もなく童話として片付けていただろう。確かに少しは進歩しているようだ。『山椒魚』は自分の成長を映す鏡に成り得るかもしれない。しかし、読書感想文の題材にしろというのは少し無理があるだろう。そう思いながらその日は帰った。

これから大人になっていくにつれて、自分を取り巻く環境は刻々と変わっていく。今まで味わったことのないような苦痛や感動を経験したり、所帯を持てたり、持てなかったりするだろう。もちろんそこには社会的な成長だけでなく、精神的な成長ももたってくる。そして、その人生の節々で本を開き、そこに映る自分の成長を感じる。これこそが読書の醍醐味のひとつなのでは、と思う。だからこそ今、読書をすすめたい。高校生ともなってくるとポケットの中の文庫本が英単語帳にすり替わってくることも多くなってくるだろう。しかし“時間は作り出すもの”だ。朝早く学校に来て、自主的に読書の時間を設けることも十分可能だと思う。“今の感覚”は今でし

か持ち得ない。今、このような名著に出会ったという事は長い目で見て、実に有意義なことではないだろうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2911y/>

読書の印象

2011年11月11日21時28分発行